

ケーブル局と地域を結ぶ日本ソフト開発(株)の「Channel-i」

(株)ケーブルネット鈴鹿

速報性の高いデータ放送で コミチャンの魅力をアップさせる



渡辺博一氏 (株)ケーブルネット鈴鹿 新規事業推進室長

日本ソフト開発(株)(滋賀・米原市、藤田義嗣社長)が提供する地域情報配信サービス「Channel-i」。データ放送や文字放送、webサイト、あるいはメール配信システム等に対し、一元的なコンテンツ管理・更新・配信ができるツールとしてケーブルテレビ局への導入が進んでいる。では実際に「Channel-i」はどのように活用されているのだろうか。F1グランプリや鈴鹿8耐などで有名な鈴鹿サーキットのお膝元、鈴鹿市をエリアに事業展開する(株)ケーブルネット鈴鹿(三重・鈴鹿市、秋月修二社長)。同社では今年4月より本格的にコミュニティチャンネルでのデータ放送を開始し、速報性の高いツールとして「Channel-i」を有効活用しているという。

地域の飾らない姿を映す 番組等が人気

弊社は2003年12月より地上デジタル放送の再送信を開始、04年12月よりCSデジタル放送サービスを開始しました。デジタル化率は10年5月時点で約75%。今年度中に完全デジタル化する予定です。

コミュニティチャンネルは2チャンネルあり、うち1チャンネルはアーカイブコンテンツ専用のチャンネルです。ともにデジタル化され、地上デジタルネットワークで放送されています。

コミュニティチャンネルの番組は、とにかく地域に根ざした、地域住民の顔が見えるようなものになっています。たとえば鈴鹿市で働く人々の中から、ひとつひとつの職種を紹介していく『職業ライブラリー』や、アポなしで街へ出て、その地域の飾らない普段の姿を撮影する番組『すずかまちぶら』などが人気です。鈴鹿は車文化の街だけに、じっくりゆっくりと地域を歩く『すずかまちぶら』は、新しい発見があると好評いただいています。

市もデータ放送を 広報ツールとして活用

コミュニティチャンネルでは10年4月より、データ放送の本格運用を開始しました。運

用面での大きな特徴は、コミュニティチャンネルに切り替えると自動的にデータ放送が立ち上がる点です。これに関しては視聴者からクレームがくることも覚悟したのですが、実際にはほぼクレームはありませんでした。しかし、だからといってコミュニティチャンネルやデータ放送が見られていないわけではなく、むしろデータ放送をよく見ていただいていると実感することの方が多いです。

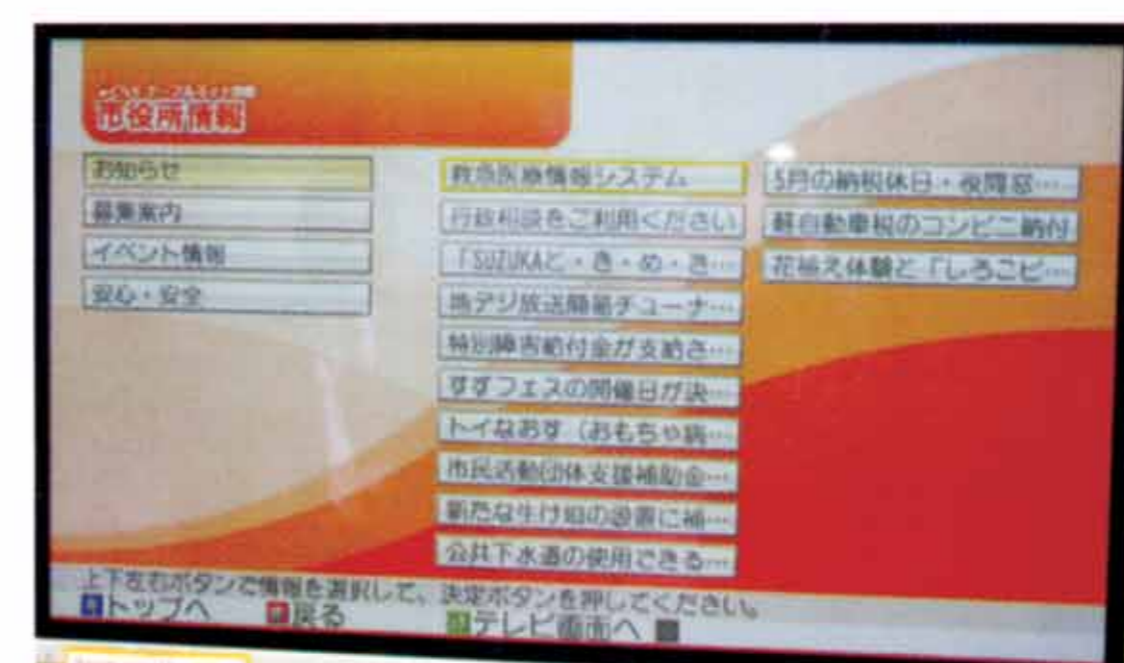
データ放送では交通情報等速報性の必要なコンテンツや、市からのお知らせ等地域住民にとって重要な情報などを掲載しています。先ほど申したように鈴鹿は車文化の街ですので、交通情報のニーズは高いです。名神高速などはよく渋滞するので、でかける前にデータ放送で渋滞状況をチェックする方も多いうですね。交通情報は5分おきの更新となっているので、最新の情報を提供できています。

鈴鹿市からのお知らせに関しては「Channel-i」を導入し、専用のページに市から直接アップしてもらっている形になっています。ブラウザベースのユーザーインターフェイスなので非常に使いやすく、アップ作業を担当している市の職員からも「ブログ感覚で使える」と好評を得ています。そうした使いやすさから、情報の更新頻度もかなり高いです。市からのお知らせや休日診療情報、イベントの開催概要等が、都度アップされています。鈴鹿市は弊社のデータ放送を広報誌やwebサイトと並ぶ広報ツールととらえ、本格的に利

用していく考えとのことです。広報誌よりも速報性に優れ、かつインターネットを利用しない人でも見られるデータ放送は、広報ツールとして高い魅力を持つようです。そうした外部からの情報更新を支えるシステムとして「Channel-i」は十分機能しています。もちろん社内からのデータ放送の情報更新にも「Channel-i」のシステムは利用されています。情報を手軽にアップできるので便利です。プレゼント情報をデータ放送に掲載するようになったところ、応募数がそれまでの3倍ほどに増えた、などということもありました。

WiMAX等 新たなサービスにも挑戦

今後データ放送に地域のお買い物情報等も掲載し、より地域の生活に根ざした利便性の高いメディアを目指していきます。その一方でWiMAXを利用した防災システムや、全く新しいビジネスモデルなど、新たな取り組みも行なっていく予定です。



鈴鹿市もデータ放送を広報に活用。さまざまな情報が提供される